



目指す将来像と計画コンセプト

1

基本理念

2

目指すべき方向性

3

計画コンセプト

4

重点テーマ

1. 基本理念

「変化しつづける 温泉リゾート 熱海」

温泉を核とした資源を未来につなぎ、良好な都市景観と上質な滞在空間を創造します。

訪問者・産業・地域・環境が調和するリゾート都市として、

国内外すべての世代に選ばれる熱海を実現するため、変化に挑戦しつづけます。

熱海は、豊かな温泉資源と美しい自然環境、そして長い歴史と文化の蓄積を背景に、日本を代表する温泉観光都市として発展してきました。首都圏に近い恵まれた立地を活かし、多くの旅行者を迎えながら、その魅力を時代ごとに磨きつづけてきたまちです。

しかし今日、少子高齢化や人口減少、気候変動や災害リスクの増大、旅行者ニーズの多様化など、観光を取り巻く環境は急速に変化しています。観光都市として未来を切り拓くためには、資源を守りつつ絶え間ない進化と挑戦をつづけることが不可欠です。

ここでいう「変化」とは、熱海の強みである温泉や自然、歴史・文化といった資源を大切に継承しながら、国内外からの訪問者や次世代の価値観に応じて、まちの在り方や観光の仕組みを柔軟に進化させることを意味します。観光の力を原動力として、「愛され、選ばれつづける熱海」を実現し、訪問者にとっては快適で魅力的な滞在先であり、市民にとっては誇りを持てるまちを築いていきます。

そのため本計画では、基本理念を「変化しつづける 温泉リゾート 熱海」と決めました。温泉を核とした資源を未来へとつなぎ、良好な都市景観と上質な滞在空間を創造しながら、訪問者・産業・地域・環境が調和するリゾート都市を目指します。こうした理念のもと、国内外すべての世代から選ばれつづける熱海を実現してまいります。

2. 目指すべき方向性

熱海が将来にわたり選ばれつづける温泉リゾート となるための確かな基礎を築きます。

本観光基本計画は、熱海が日本有数の温泉地として大きく飛躍した昭和期が100年となる節目に策定されました。この間、熱海は温泉資源を核にした魅力や首都圏に近い立地を活かし、日本を代表する観光都市としての地位を築いてきました。しかし同時に、人口減少や少子高齢化、気候変動や災害リスクの増大、旅行者ニーズの多様化といった課題が顕在化し、熱海観光を取り巻く環境は大きく変化しています。次の100年も「選ばれつづける温泉リゾート」でありつづけるためには、新たなスタートを切り、未来志向の観光まちづくりに挑戦することが不可欠です。

本計画が掲げる5年間の取組期間においては、観光と市民生活が相互に恩恵をもたらし合う好循環を形成し、地域の豊かさや市民の誇りを支えるとともに、国内外から持続的に評価される温泉リゾート都市の基礎を築くことを目指します。

そのための中核となる仕組みが、2025(令和7)年から導入された宿泊税と、2024(令和6)年に設立された「一般財団法人熱海観光局」です。宿泊税は、観光による収益を観光環境の整備や市民生活の質の向上へ還元する新たな財源であり、観光局は官民一体となって観光地経営を推進する拠点的存在です。

これらを両輪として活用し、観光を単なる産業振興にとどめず、都市全体の持続的な発展と市民満足度の向上につなげていきます。

3. 計画コンセプト

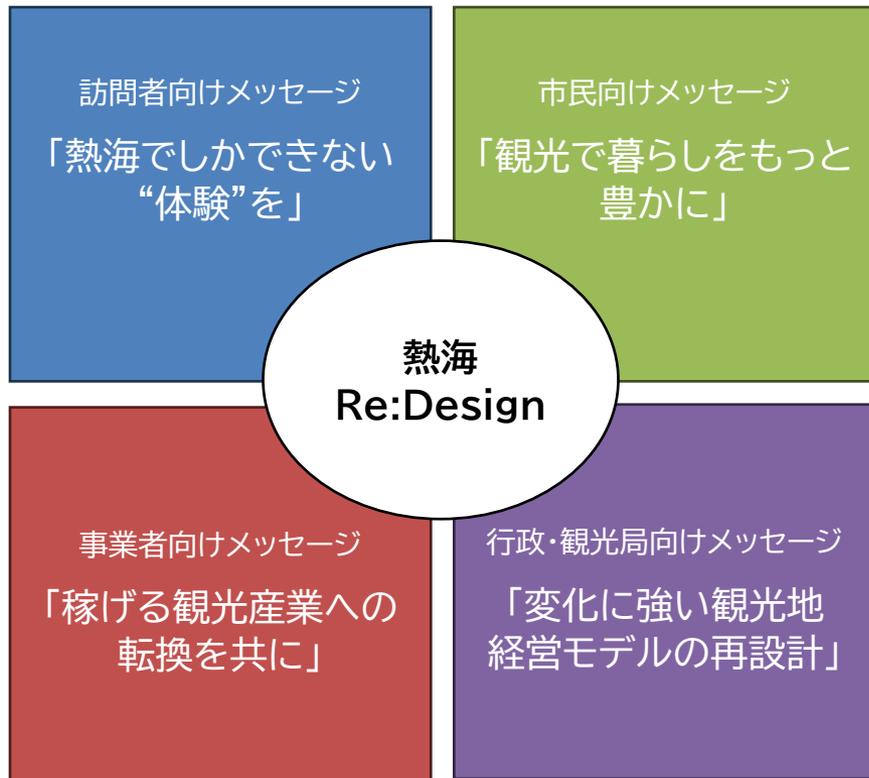
熱海 Re:Design

観光を磨き、まちを再設計する5年間
次の100年も選ばれつづけるまちに

このコンセプトは、本計画が描く未来像を象徴的に示すものであり、計画期間終了時に「熱海がどのような姿でありたいか」を表す言葉です。単なるスローガンではなく、計画全体を貫く方向性と、市民・事業者・訪問者が共有すべき理念の軸を示します。

この5年間は、観光の力を原動力として地域の資源と暮らしをリデザインし、市民には誇りと安心を、訪問者には感動と満足をもたらす都市を築く挑戦の期間です。温泉を核に、自然・文化・産業が調和する上質なリゾート空間を育み、訪れる人々に「また来たい」と思わせ、市民が「ここに住んでよかった」と実感できるまちを実現します。

この取組は、一時的な観光振興にとどまらず、100年の歴史を受け継ぐ熱海が次の100年に向けて踏み出す新たな挑戦です。計画コンセプトは、その第一歩を示す旗印として位置づけられています。



4. 重点テーマ

1. 高付加価値と平準化の両立

温泉を核とした「リゾート型
観光都市」への変化

需要の平準化を図り、平日・閑散期にも魅力ある商品を提供して、年間を通じた安定した観光地経営を確立します。企業研修やMICE、インバウンド、富裕層市場を開拓し、ガストロノミーなど体験コンテンツを充実させ、観光消費単価を高め、「いつ訪れても上質な滞在ができる都市」を目指します。

観光地経営の基盤となる人材不足への対応も重要です。人材の確保と定着を進め、サービスの質を高めることで、高付加価値化と需要平準化を支えます。

2. 観光と市民生活の調和

市民が観光を誇りと思える
まちづくり

観光の恩恵を市民が実感し、渋滞や混雑などの負荷を軽減することが重要です。観光はまちの活力の源であり、地域との調和が持続的な発展につながります。宿泊税を活用し、交通利便性の向上や景観整備等で暮らしの質を高め、市民参加の文化事業や地域交流を通じて観光と日常が交わるまちを育てます。

観光の価値を地域に循環させ、市民が観光を誇りに思い、訪れる人と住む人がともに心地よく過ごせるまちを目指します。

3. 危機対応力と観光地経営の強靱化

変化に強い観光地経営モデル
の確立

自然災害や感染症、経済変動など、観光に影響を与えるリスクに備え、観光事業者のBCP策定を促進し、防災・避難情報の多言語化を進めます。行政・観光局・事業者が連携し、訪問者が安心して滞在できる環境を整えます。

需要分散や事業多角化、デジタル活用によるリスク管理を進め、外的変化に強い経営基盤を築きます。「安全・安心の観光地」としての信頼を高め、持続的な観光都市を目指します。

本計画は、昭和期の飛躍から100年の節目に、次の100年も選ばれつづける温泉リゾート都市を目指して策定するものです。これまでの計画を総括し、現状の課題と将来像を踏まえて熱海の進むべき方向性を示しました。平日・閑散期の需要平準化、観光と市民生活の調和、コロナ禍の経験や頻発する災害を踏まえた危機対応力の強化はいずれも喫緊の課題です。

本計画では、これらに真正面から取り組み、持続可能で高付加価値なリゾート都市への道筋を築くために3つの重点テーマを設定しました。これは次の100年へのリスタートを支える、計画期間最初の5年間の重点施策です。